

「みずかがみ」の穂肥時期です

4月下旬～5月上旬植で6月25日頃から！

- ・ 6月中旬時点では、平年並からやや遅い生育となっています。
- ・ 幼穂長1mmが施用時期です。ほ場ごとに幼穂を確認し遅れずに施用しましょう。

< 穂肥施用の基準 >

分施体系	・ 窒素成分で3kg/10a(<u>大豆跡</u> ：2.1～1.5kg/10a)
基肥一発体系	・ <u>原則不要</u> です。 ・ 現在、 <u>茎数が25本以下</u> の場合は、窒素成分で2kg/10a程度施用してください。

○環境こだわり基準（化学肥料成分4kg/10a以内）を順守してください。

○玄米タンパク質含有率が上昇し、食味低下につながることを避けるため、穂肥は遅れずに施用しましょう。



< 今後の水管理 >

○出穂期前後は水稻が最も水を必要とします。出穂前後の各3週間で常時湛水することで玄米品質低下を軽減できます。

○基肥一発体系のほ場でも幼穂形成期に入水しましょう。

なお、環境保全型農業直接支払交付金で「長期中干し」を選択されている場合は、14日以上の中干しを確保してください。

◎熱中症に注意！

農作業中は、こまめな塩分・水分補給や休憩を行い、健康管理には十分注意するよう心がけましょう。